

一夏一

水際に佇む句碑や馬酔木垂る

粹月

旅心果たせぬままに餘花の雨

正泉水

木戸押せば雨に打たるる白牡丹

筑水

傘の子に傘を重ねて梅雨に入る

陸前

伽羅香の煙たゆとう梅雨の朝

織女

一村を水の抜け行く田植かな

大林子

石段にそぼ降る雨や紫陽花寺

昭伯

荒梅雨や読経流るる御霊廟

春郷

裏路地に亭主揃ひし溝浚へ

筑水

万緑の大樹に届けと大噴水

泳球

海猫や津波に消へし村いくつ

陸前

簾巻く駿河の海の見ゆるまで

一舟

若鮎や光となりて堰を越ゆ

陸前

ビー玉の音がのど打つラムネかな

正泉水

街道の水場に瓜の浮き沈み

筑水

打水をして客待の散髪屋

むつ郷

雲の峰湧きて相模の海紺き

正泉水

九合目疲れ吹き飛ぶ山清水

麦人